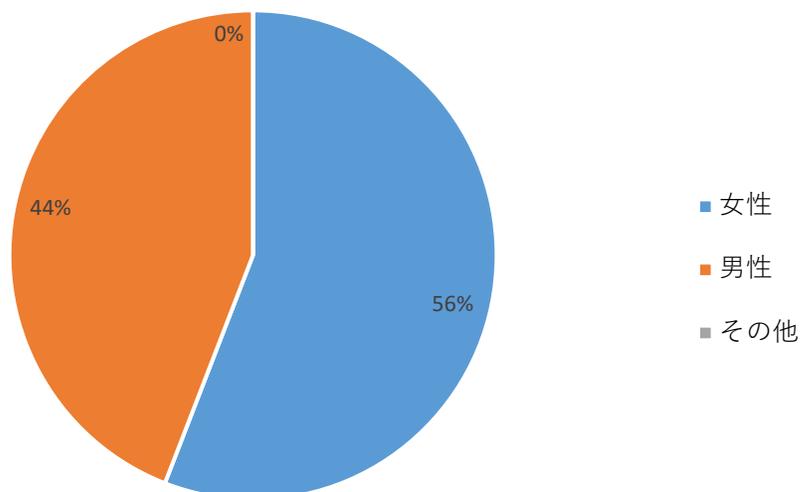


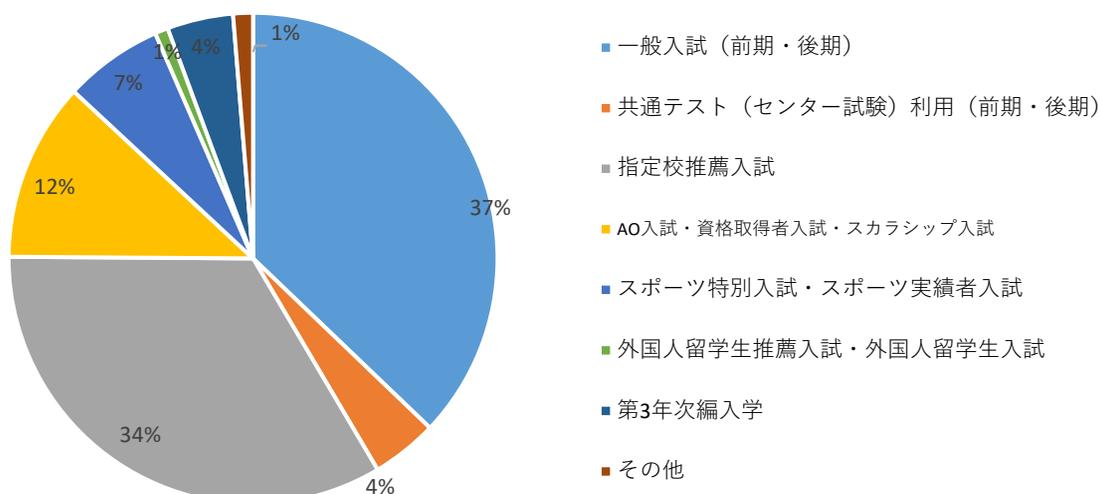
2024年度コミュニケーション学部卒業時アンケート

調査対象： 2024年9月卒業生 2名、2025年3月卒業生 242名
調査実施期間： 2024年9月2日～9月30日、2025年3月3日～3月31日
回答数： 229件
回答率： 93.9%

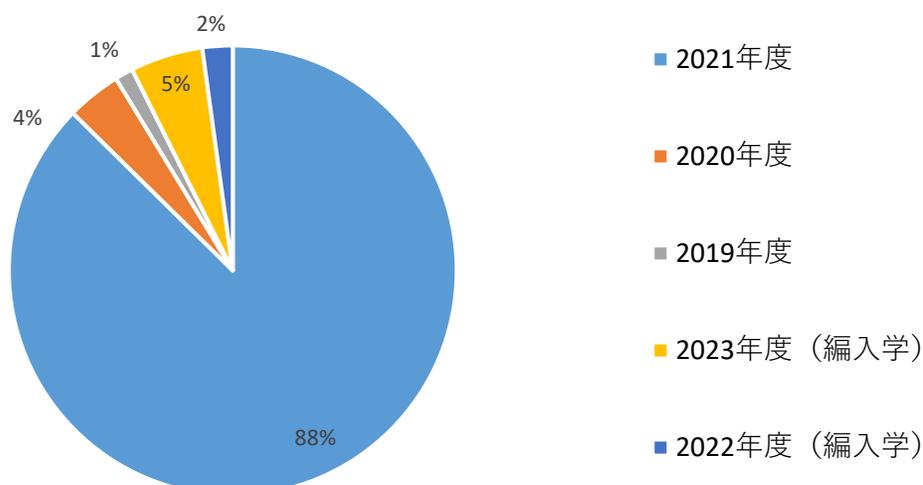
設問1 あなたの性別をお答えください。



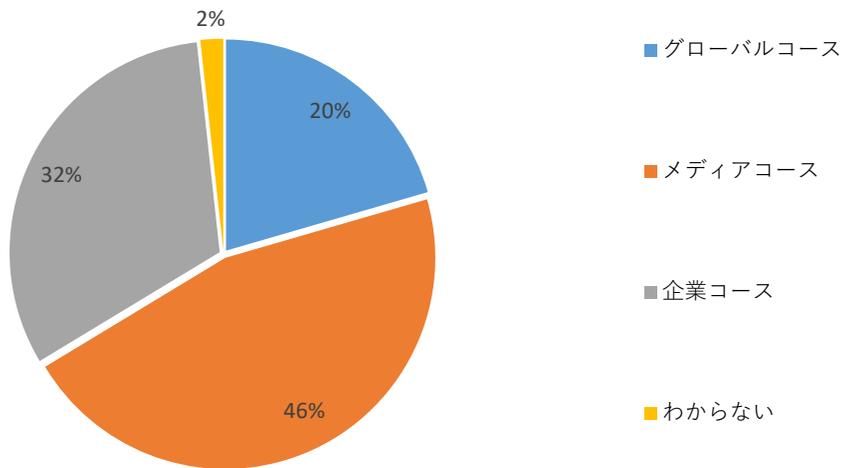
設問2 あなたはコミュニケーション学部にどのような試験制度で入学しましたか。



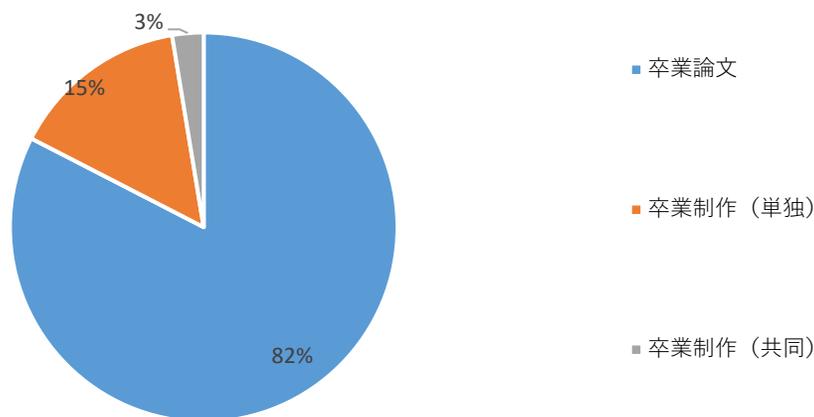
設問3 あなたの入学年度（編入学の方は編入学年度）はいつですか。



設問4 あなたは学部でどのコースに属していましたか。

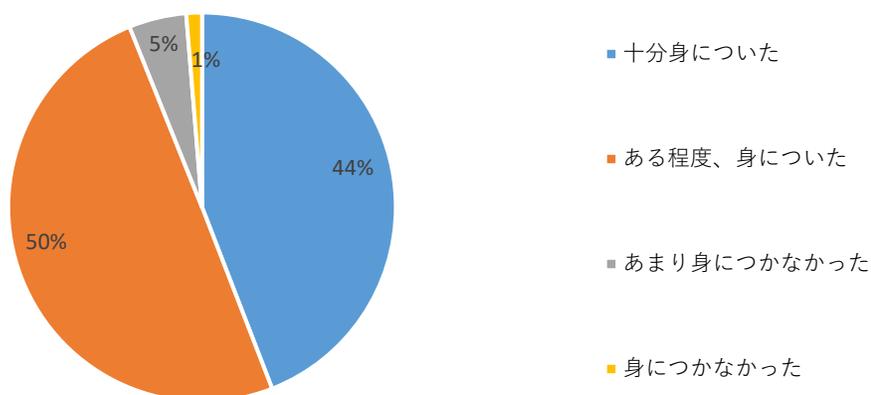


設問5 あなたは「卒業研究」をどの区分で提出しましたか。

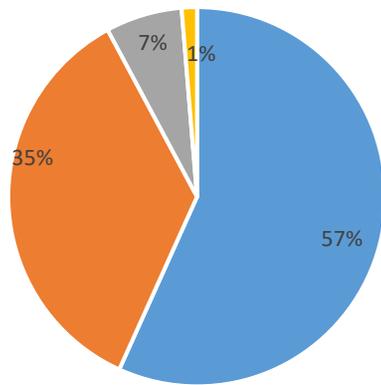


大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

設問6 「人間・社会・言語・自然」についての教養

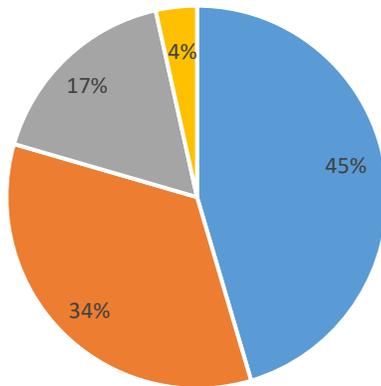


設問7 他者との対話力



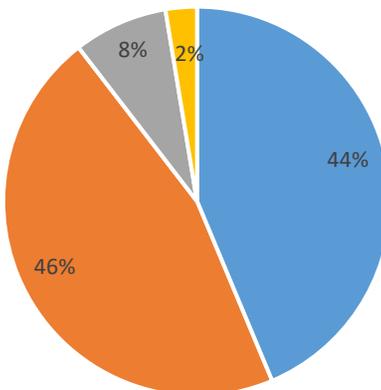
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問8 他文化との対話力



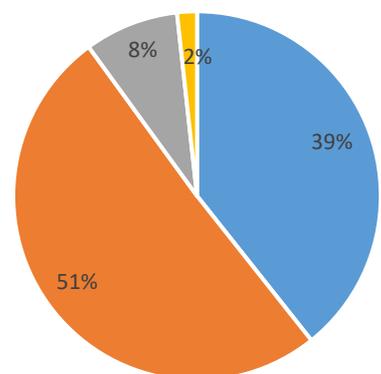
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問9 メディアに関する知識



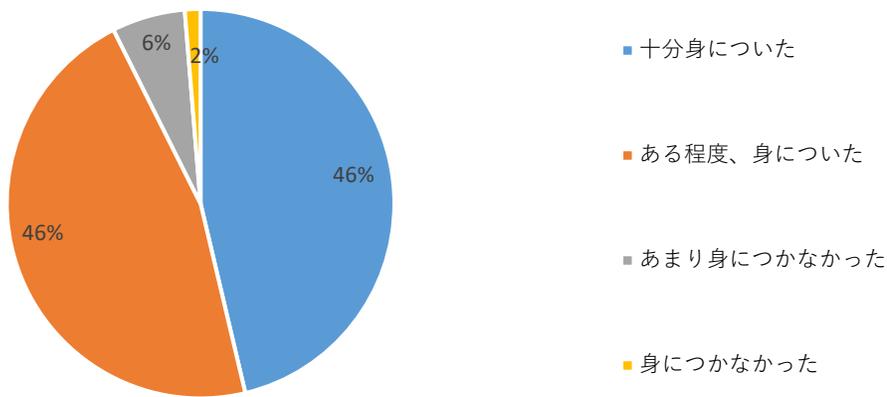
- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問10 情報を分析・評価する能力

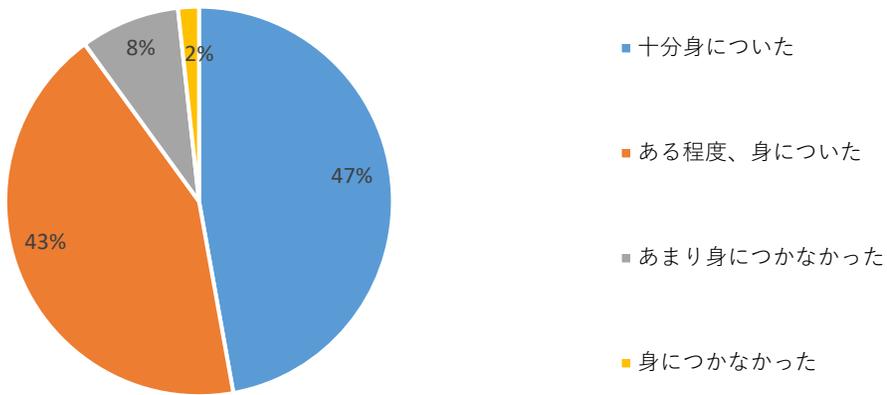


- 十分身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

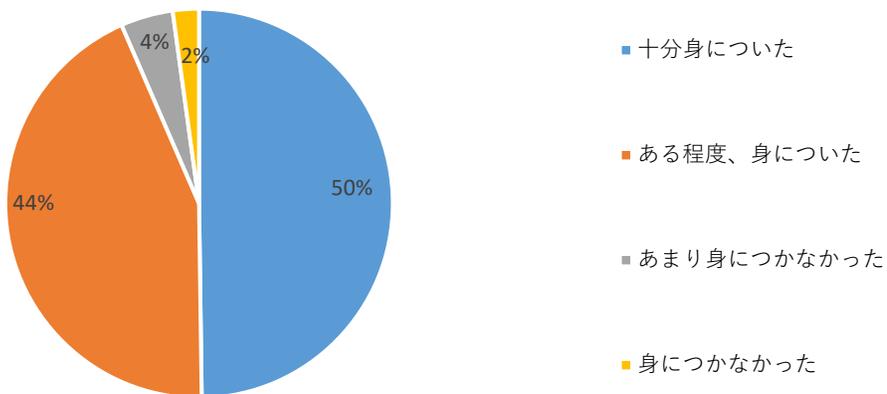
設問11 コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力



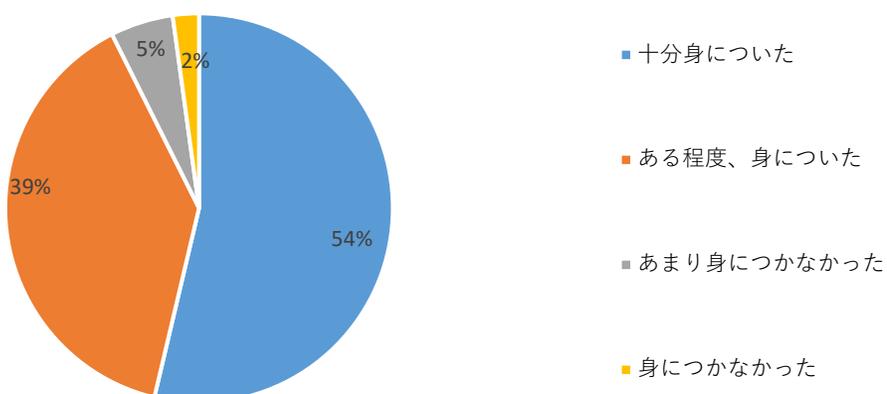
設問12 コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力



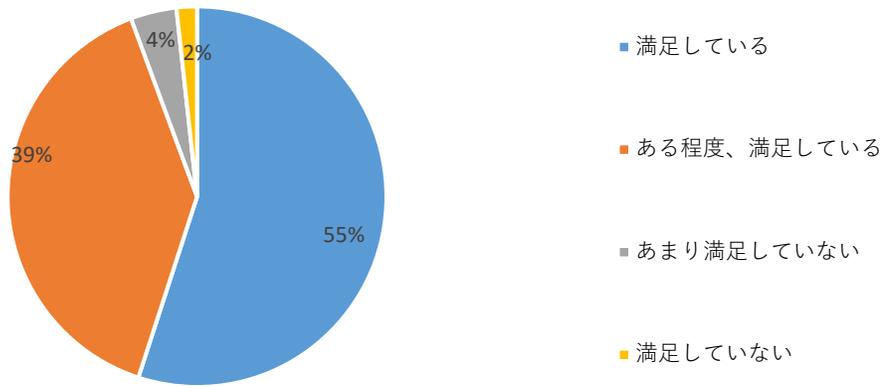
設問13 自分の考え・アイデアを表現する技能



設問14 自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能

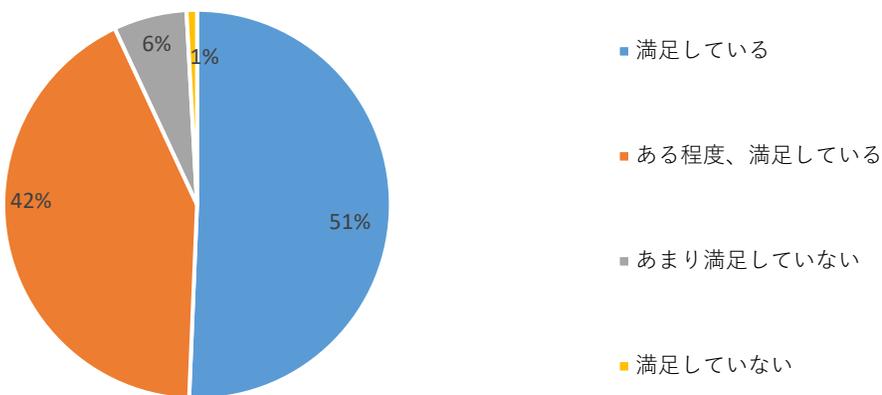


設問15 在学期間を振り返ってみて、あなたはコミュニケーション学部での学修にどの程度満足していますか。

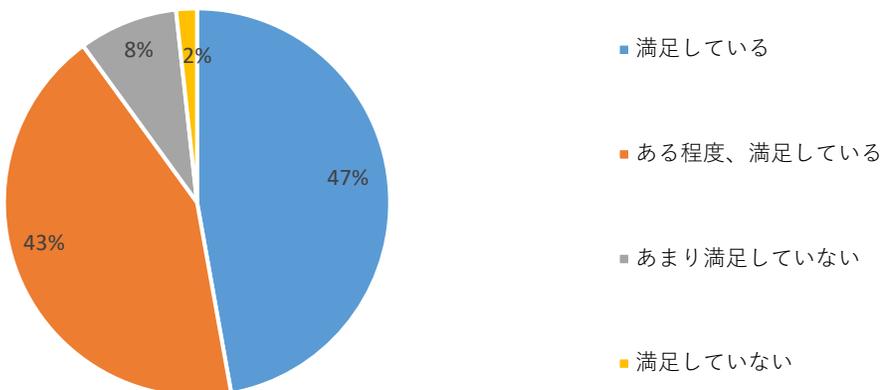


入学後の総合的な満足度として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

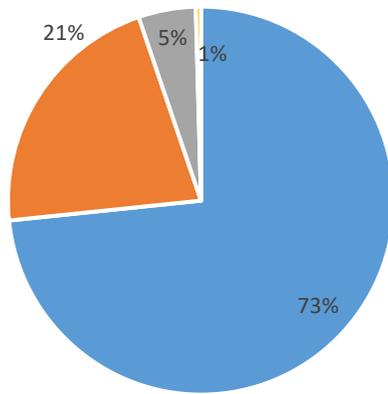
設問16 学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育



設問17 総合教育科目に関わる教育

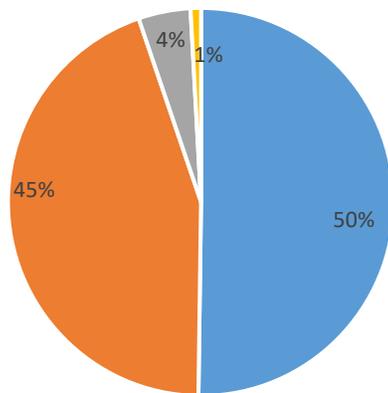


設問18 「演習」



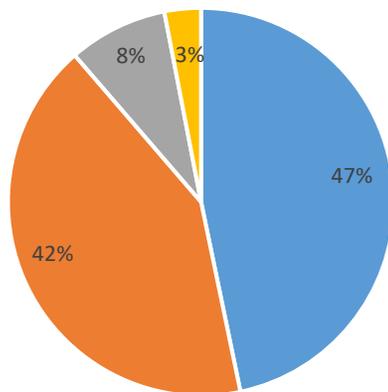
- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

設問19 カリキュラム全般



- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

設問20 就職活動支援



- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

【分析編】

2024年度卒業時アンケートは、2024年度コミュニケーション学部卒業生を対象に、4年間の学修成果（成長実感）について卒業時の認識を明らかにすることを目的に実施した。このアンケートは、9月卒業生に対しては2024年9月2日～9月30日、3月卒業生に対しては2025年3月3日～3月31日にオンラインで実施され、合計229名（9月卒業生2名、3月卒業生227名）から回答を得た。これは卒業生全体の93.9%（229/244）に相当する。調査項目は、学部のディプロマ・ポリシー（以下、DP）に沿った形で作成されている。

まず、DP1「コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養」に対応する評定項目が「人間・社会・言語・自然についての教養」である。教育課程上は、総合教育科目を中心に学修する内容である。「十分身についた」と回答した者が44%、「ある程度、身についた」と回答した者が50%であった。この2つを合計すると、ポジティブな自己評価を示した者が94%と回答者の大多数を占めている。

DP2「コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力」に対応する評定項目が「他者との対話力」および「他文化との対話力」である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、グローバルコース科目およびワークショップ科目を中心に学修する内容である。「他者との対話力」については、「十分身についた」が57%、「ある程度、身についた」が35%と、この2つの選択肢を合計した肯定的自己評価は92%と非常に高い割合であった。そして、「他文化との対話力」は「十分身についた」「ある程度、身についた」をあわせて79%であった。2つの項目間で約10ポイントの差があることに留意する必要があるものの、いずれの項目についても多くの学生が肯定的評価をした。

DP3「コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力」に対応する項目が「メディアに関する知識」「情報を分析・評価する能力」である。基幹科目と展開科目の共通科目、メディアコース科目および表現系ワークショップ科目を中心に学修する内容として教育課程上に位置づけられている。それぞれ肯定的回答（「十分身についた」「ある程度、身についた」の合計）が90%（メディアに関する知識）、90%（情報を分析・評価する能力）であった。この数字を見る限り、多くの学生がこれらの修得を達成したという自己認識があったことが確認できる。

DP4「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」に該当する項目が「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力」「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」である。教育課程上は基幹科目と展開科目の共通科目、3つのコース科目、調査系ワークショップ科目を中心に学修する内容である。これらの2つの項目では肯定的回答がそれぞれ92%（発見）、90%（分析・解決）であったことから、卒業生自身の自己評価でみてどちらも十分に高い達成度であったと判断できる。

DP5「自分の考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能」

に該当する項目が「自分の考え・アイデアを表現する技能」および「自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能」である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、企業コース科目、英語系・表現系ワークショップ科目、そして卒業研究を中心に学修する内容となっている。前者（表現する技能）の項目の肯定的回答は94%であった。また後者（伝達していくコミュニケーション技能）の項目の肯定的回答は93%であった。これらのことから、DP5についても十分達成できていたと卒業生が自己評価したと判断できるだろう。

また、入学後の総合的な満足度について、「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」「総合教育科目に関わる教育」「演習」「カリキュラム全般」「就職活動支援」の5項目を尋ねた。肯定的回答（「満足している」「ある程度、満足している」の合計）は「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」で93%、「総合教育科目に関わる教育」で90%、「演習」で94%、「カリキュラム全般」で95%、「就職活動支援」で89%であった。専門教育に対する満足度についてはどちらも93%（講義）、94%（演習）の肯定的回答が得られており、高い満足度が示されたといえる。特に「演習」については、「満足している」の回答の割合が73%であり、過年度に引き続き高い満足度が得られた。

総括すると、過年度卒業生と同じく、2024年度コミュニケーション学部卒業生の大多数が、コミュニケーション学部のディプロマ・ポリシーを4年間で達成したと自己評価したといえる。また、教育課程に対する満足度も非常に高い評価を得た。

2024年度卒業生は、1年次は新型コロナウイルス感染症対策により遠隔方式の授業が多くなかで大学生活が始まったが、2年次以降は対面授業を中心に学習することができた学年である。卒業時アンケートの結果からは、コロナ禍で大学生活を過ごした過年度卒業生と大きな差はみられなかった。また、コロナ禍前の2019年度卒業生と比較すると改善している項目がほとんどであった。本アンケートは自己評価方式であり、卒業生の主観的認識にもとづく回答である点に留意することが必要であるが、2024年度卒業生が高い学修成果を認識したことは注目に値する。